

北海道文教大学附属高等学校 校歌 (解釈)

作詞 鈴木武夫

- 学訓「清正進実」～「清く正しく雄々しく進め」を共通フレーズとし、さらに、建学の精神の4本の柱、附属高校で育成される生徒像、人として成長する様子を、歌詞1番から「真理の笑顔」「進取の笑顔」「未来の笑顔」に表現した歌詞とした。
- 歌詞1番～3番は「花・鳥・木」「地・空・道」の並びである。
- 歌詞には、鶴岡学園の「鶴」「岡」、創設者の「新太郎、とし夫妻」の名前の一部を用い「真白鶴」「知恵の岡」「新たな」「みとし夢」を入れた。
- 恵庭市の花「鈴蘭」の花言葉は「幸福」、また、恵庭市の木は「一位」（いちい・おんこ）言葉は「高尚」であることから、続く1番の歌詞に「～幸せ満ちる」、3番の歌詞には「～高き理（ことわり）」（食が始まりの学園であり、「料理」は「ことわりをはかる」にも通じる）とした。
- 歌詞1番、「鍛える心身」2番「勤しむ心身」3番「弛まぬ心身」は、本校の源で卒業生が愛唱する「北海道栄養短期大学附属高等学校校歌」にあった「鍛うるころ」「いそしむころ」「たゆまぬころ」を引用するとともに、旧明清高校校歌にある、仲間とともに歩むという歌詞や「泉」「翼」の言葉を入れ、歴史を引き継いだ歌詞にまとめた。